

目 的

橋本病は発病すると簡単には治らないとされている。したがって患者の年齢分布を調べると高齢者ほど多くなってゆく、と一般的に想像されている。

しかし当院(高松内科クリニック)の患者においては抗甲状腺自己抗体値が時間経過とともに減少していく傾向を最近認識している。さらには抗体が陰性化して橋本病が治癒状態になる例も認められる。

そこで今回、当院の患者さんにおいて、一般に思われているように橋本病が加齢とともに増えてゆくか否かを検討した。

抗甲状腺自己抗体が消失し橋本病が治癒した症例の経過

患者1 32才女性		患者2 21才女性		患者3 54才女性		患者4 35才女性	
TgAb	TPOAb	TgAb	TPOAb	TgAb	TPOAb	TgAb	TPOAb
(<30.0 IU/L)	(<15.0 IU/L)						
501.7	57.2	71.0	23.0	577.9	8.1	93.9	9.8
111.7	—	40.9	<5.0	221.9	5.5	151.9	12.1
48.8	19.1	22.0	10.6	10.0	9.9	17.3	10.4
224.0	15.0	12.3	7.1	<10.0	—	<10.0	<5.0
19.4	<5.0			17.4	8.3		
<10.0	<5.0						

対 象

橋本病	271名
バセドウ病	309名
甲状腺腫瘍(良性)	207名

2011年度の受診患者から無作為に抽出

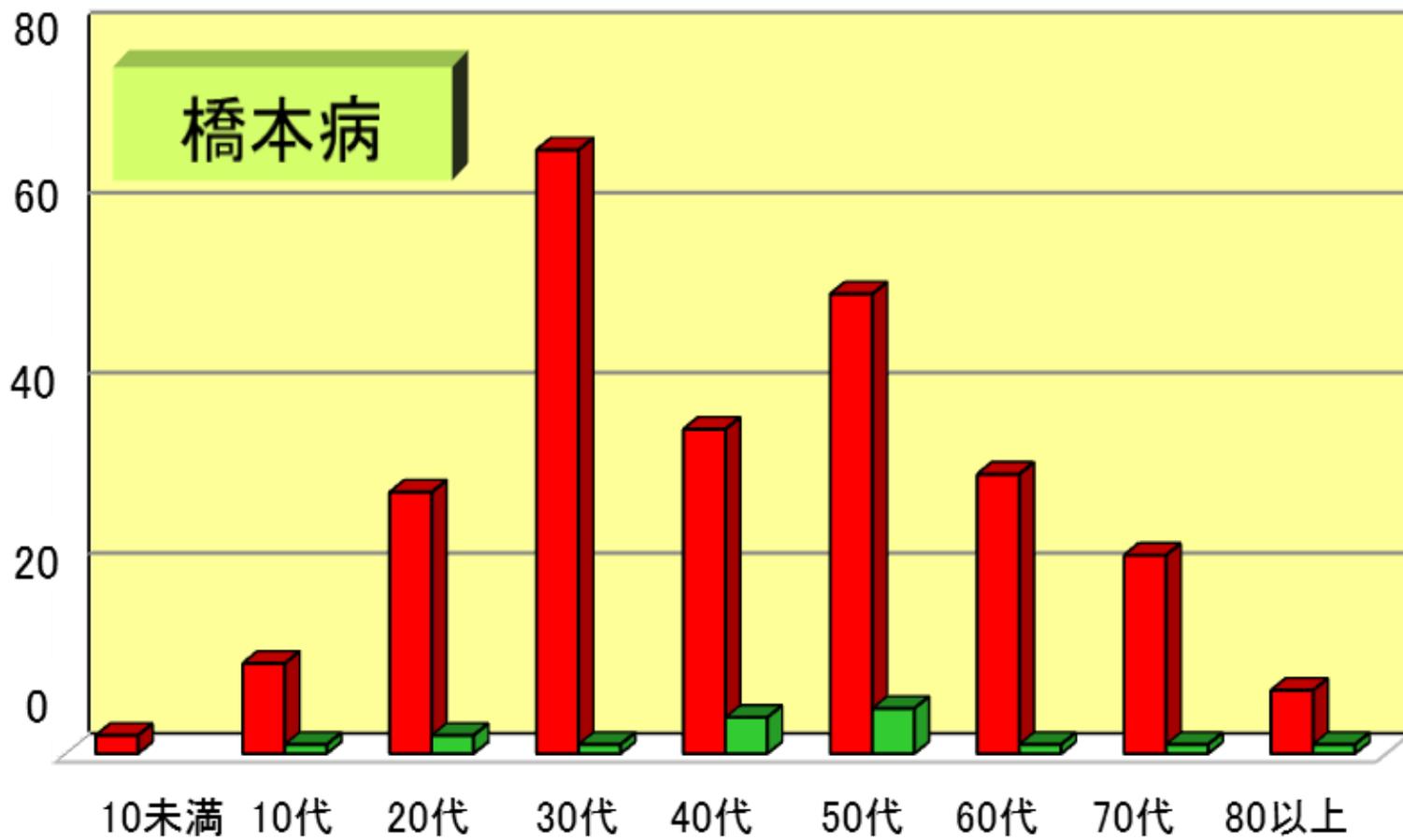
甲状腺乳頭癌	157名
機能性甲状腺腺腫(AFTN)	35名
亜急性甲状腺炎	70名

2001～2012年までの全患者から解析

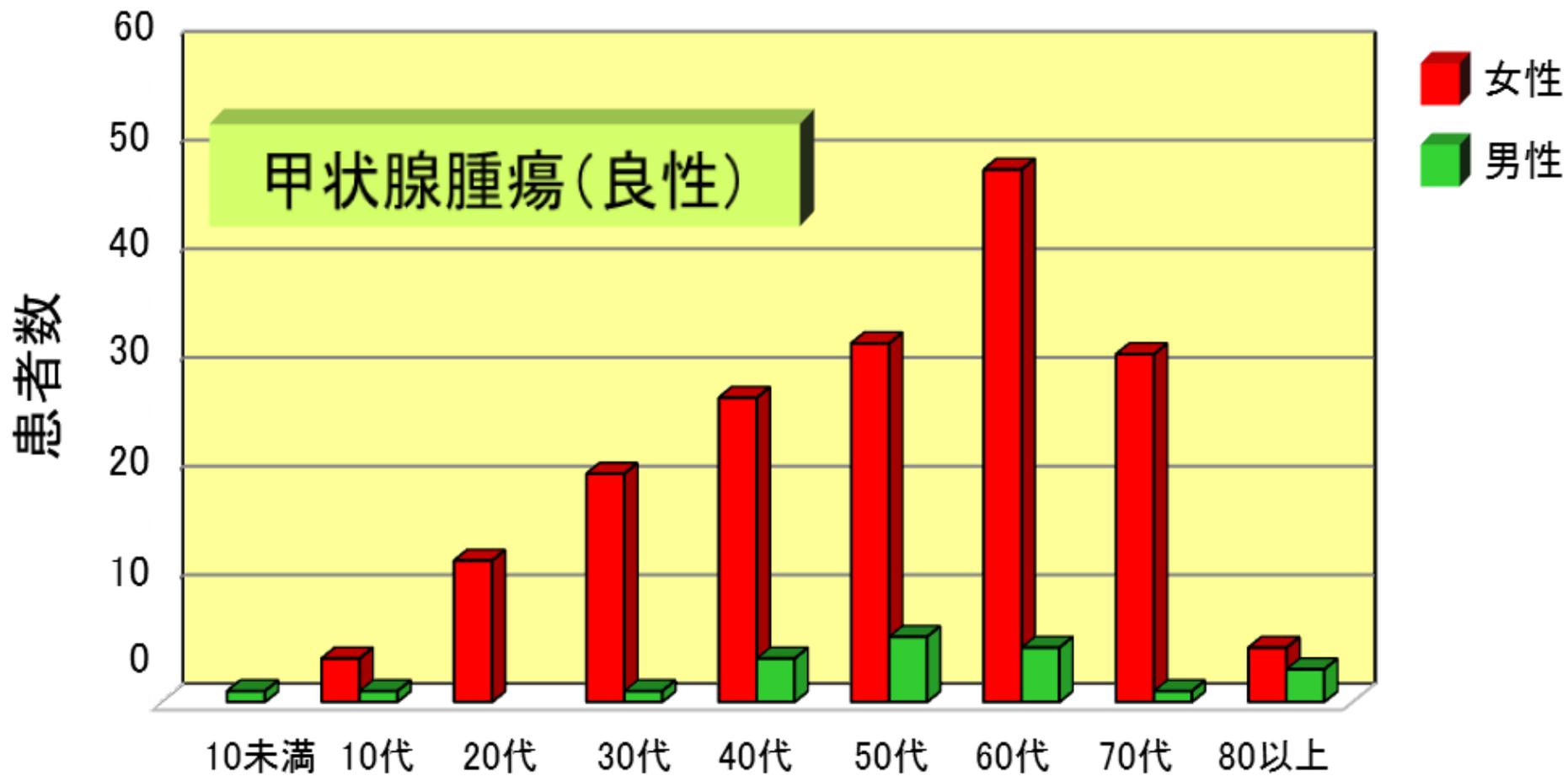
橋本病

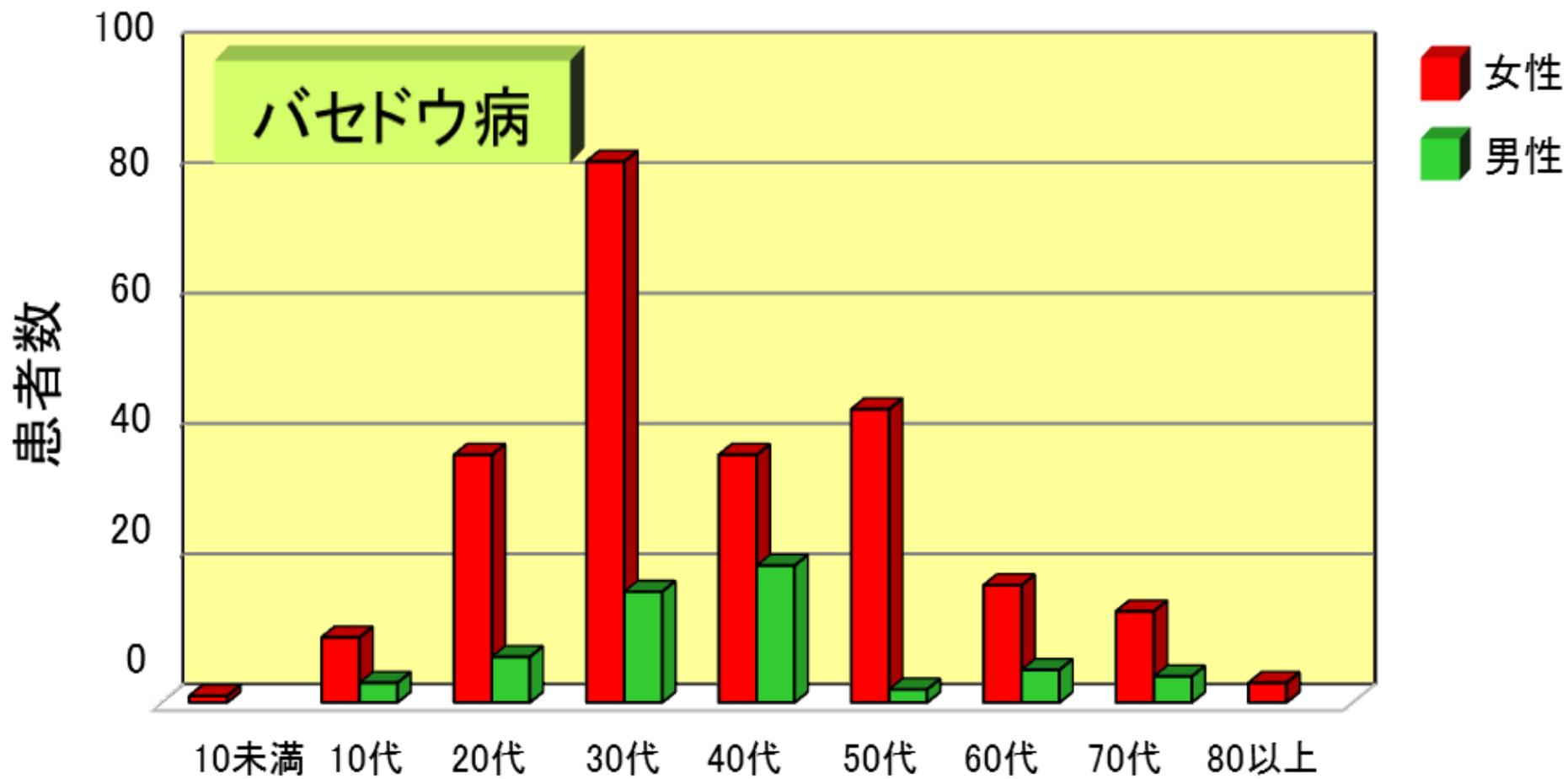
女性
男性

患者数

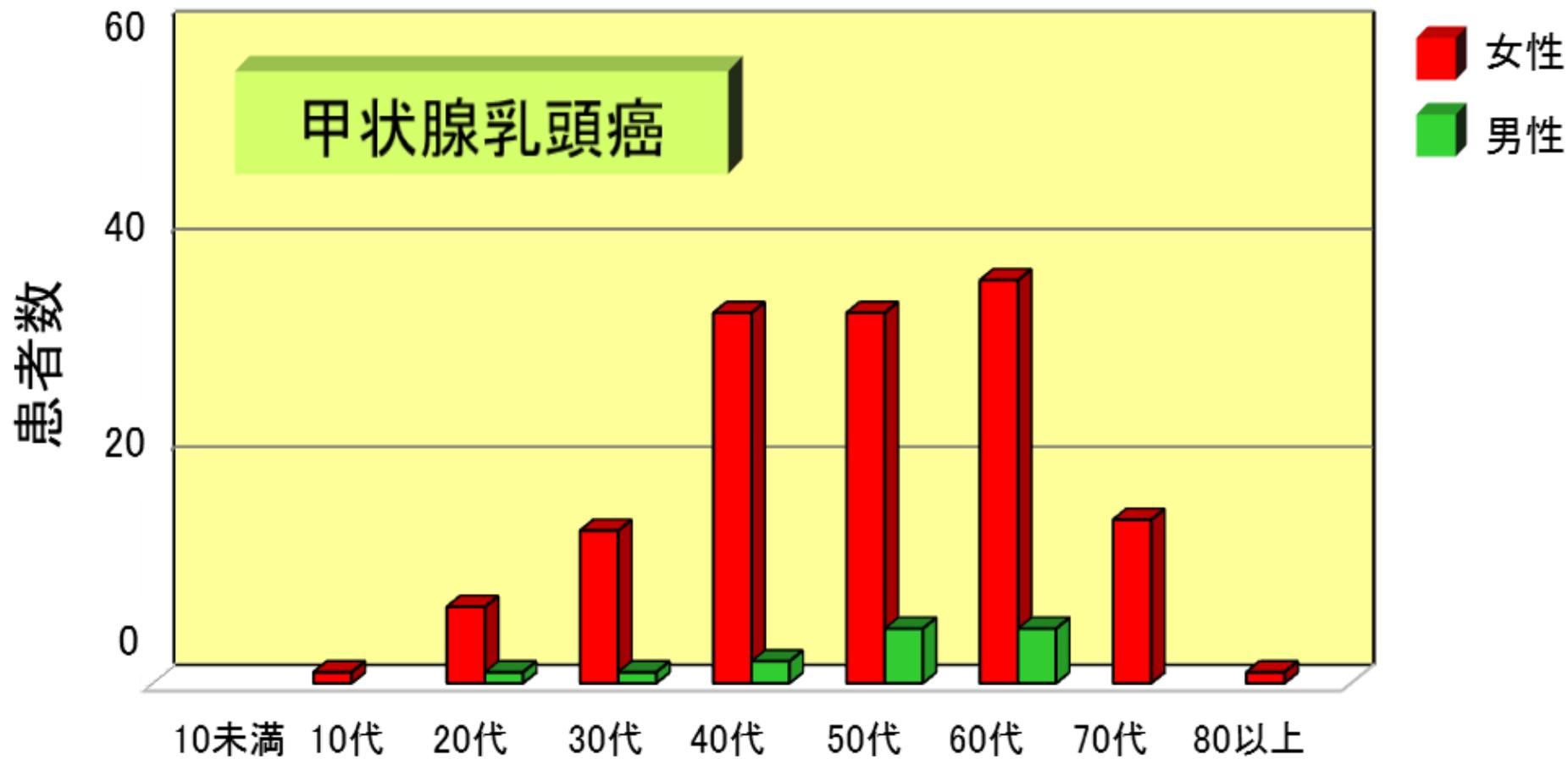


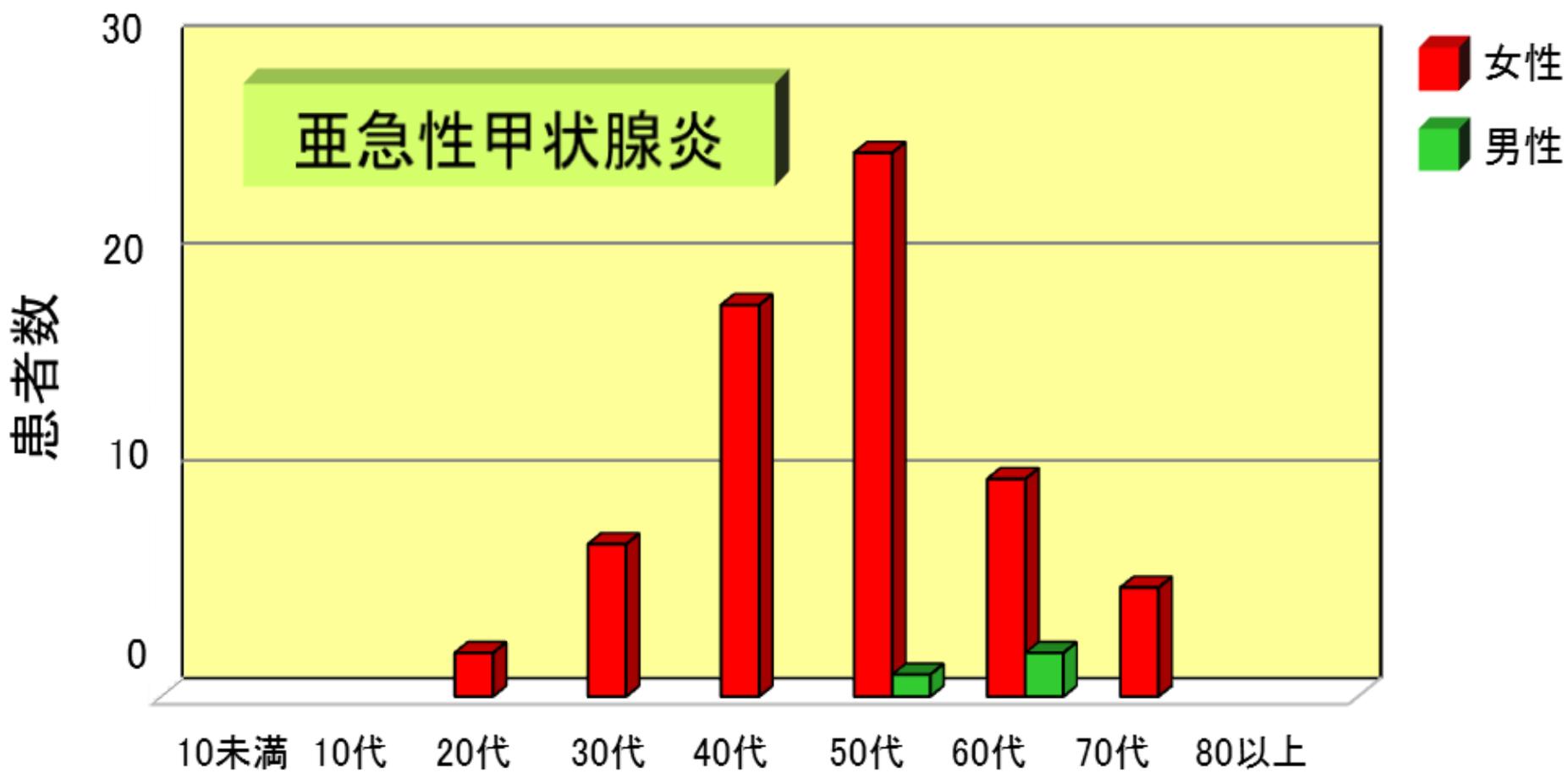
甲状腺腫瘍(良性)

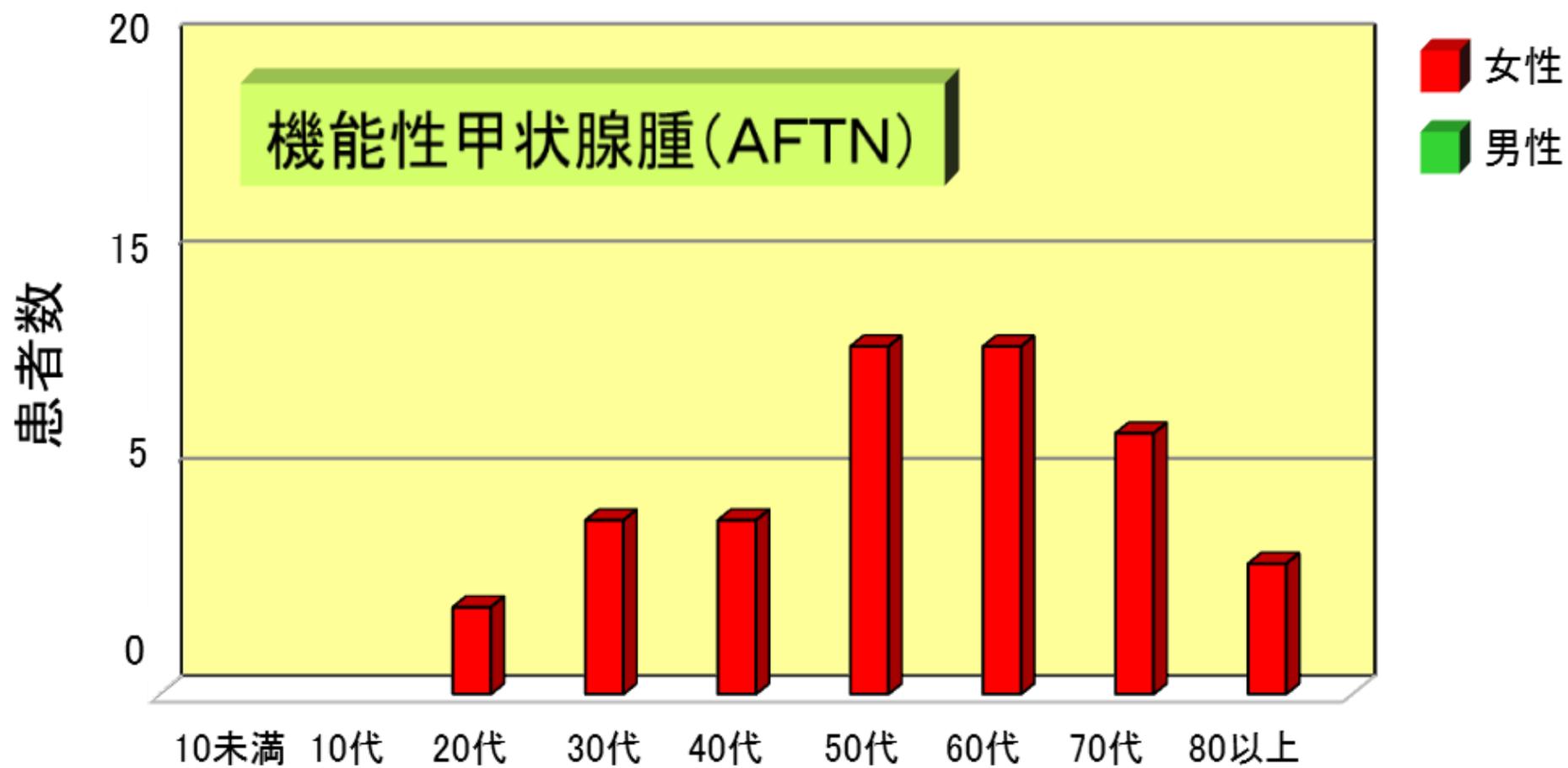




甲状腺乳頭癌







結 論

1. すべての腫瘍性甲状腺疾患群は加齢とともに増加する。
2. ウイルス感染症の亜急性甲状腺炎は50才台の正規分布をとる。
3. 自己免疫疾患の橋本病は、バセドウ病と同様に30才台と50才台の2峰性に出現する。
4. 橋本病は加齢とともに集積増加する疾患ではないことが示唆される。
5. 臨床の場で患者に「あなたの橋本病はきちんと経過をみてゆけば治ることも期待できる病気です。」と告知できる可能性がある。